

問1 人間は、誕生、成人、結婚、死といった生涯の節目において、それまでの社会的な立場を離れ、新たな役割や地位を獲得するための儀式を行う。日本におけるお宮参りや七五三、成人式、葬式などがこれに該当し、これらは個人の成長や立場の変化を共同体が承認する意味合いを持つ。一方、八十八夜や田植えなど、季節の循環や農作業の節目に合わせて毎年繰り返される年中行事とは区別される。このような、個人の生涯の節目に行われる儀礼を何というか。 (2007年 全国公立入試 類似)

1. 年中行事 2. 冠婚葬祭 3. 葬送儀礼 4. 通過儀礼

問2 自分が特定の相手に対して嫌悪感を抱いているにもかかわらず、「相手が自分を嫌っている」と思い込むように、自らの心の中にある受け入れがたい感情を、他者が持っているものとして認知する防衛機制を何というか。 (2011年 全国公立入試 類似)

1. 昇華 2. 抑圧 3. 投影 4. 退行

問3 現代社会における家族機能の外部化の具体例として、高齢者の介護を家庭内だけで抱え込まず、社会全体で支え合うことを目指して2000年から施行された、日本の社会保険制度は何か。 (2022年 全国公立入試 類似)

1. 生活保護制度 2. 国民年金制度 3. 雇用保険制度 4. 介護保険制度

問4 精神的に健康で成熟した人間が備えるべき基準として、「自己の拡大」や「客観的な自己理解（ユーマーの感覚）」、そして統一的な「人生哲学の獲得」など、いくつかの条件を提示したアメリカの心理学者は誰か。 (2018年 全国公立入試 類似)

1. キャッテル 2. エリクソン 3. ロジャーズ 4. オルポート

問5 現代社会における人々のコミュニケーションや行動様式を分析すると、世代間によって他者への配慮の示し方に違いが見られる。例えば、若年層は同調や摩擦回避を意識した対人配慮を重視する傾向がある。このように、伝統的な慣習や自己の内面的良心よりも、周囲の他者の期待や反応を敏感に察知し、それに自らを合わせていこうとする、現代の大衆社会に特有の社会的性格を何というか。 (2013年 全国公立入試 類似)

1. 内部指向型 2. 市場指向型 3. 伝統指向型 4. 他人指向型

問6 英語の「良心」の語源である「共に知る」という言葉は、他者と知を共有するだけでなく、自分自身を見つめるもう一人の自分との対話を意味することもある。このような自己との対話を通じて、自らの魂をより良く整える「魂の配慮」を説き、不正を犯しそうになった際に内なる声（ダイモニオン）による警告を受けたとされる、古代ギリシャの哲学者は誰か。 (2021年 全国公立入試 類似)

1. ゴルギアス 2. ソクラテス 3. ピタゴラス 4. エピクロス

問7 インターネットなどの情報通信技術が急速に普及する中で、それらを利用できる環境や能力、機会の違いによって、個人の所得や社会的地位、あるいは地域間に生じる格差を何というか。 (2020年 全国公立入試 類似)

1. インフォ・デミック 2. テクノ・ストレス 3. デジタル・デバイド 4. フィルター・バブル

問8 インターネットや携帯電話などの普及に伴い、溢れる情報の中から必要なものを主体的に選択し、その信憑性を評価して適切に活用する能力が現代社会において強く求められている。このような、メディアから得られる情報を主体的に読み解き、発信する能力を何というか。 (2011年 全国公立入試 類似)

1. デジタル・ディバイド 2. メディア・リテラシー 3. ネット・リテラシー 4. デジタル・シチズンシップ

問9 現代社会の複雑化や高度化に伴い、社会的な自立に必要な知識や技術の習得期間が長期化している。これに関連して、社会的な責任や義務を一時的に猶予され、大人としての自己を確立するための準備期間を、心理学者のエリクソンは何と呼んだか。 (2020年 全国公立入試 類似)

1. アイデンティティの確立 2. アイデンティティの拡散 3. 心理社会的モラトリアム 4. アイデンティティの危機

答え合わせ・解説 No.1

問1	答え 4 通過儀礼	誕生、成人、結婚、死など、個人の生涯の節目において、新しい社会的な役割や地位を獲得するために行われる儀礼を通過儀礼（イニシエーション）と呼ぶ。これらは、個人が新たな段階へ移行することを社会的に承認する役割を持つ。お宮参りや七五三、葬式などは通過儀礼の代表例である。これに対し、八十八夜や端午の節句などは、季節の節目や農作業の目安として毎年繰り返される年中行事であり、個人の生涯の節目に伴う通過儀礼とは区別される。
問2	答え 3 投影	自らの中にある抑圧された不快な感情や欲求を、他者が自分に対して向けているものと思い込むことで、自らの心の安定を保とうとする防衛機制を投影（または投射）と呼ぶ。これに対し、満たされない欲求を社会的・文化的に価値のある活動（芸術やスポーツなど）に向ける心の働きは昇華、抑圧された欲求とは正反対の態度や行動をとる心の働きは反動形成と呼ばれる。
問3	答え 4 介護保険制度	高齢化の進展や核家族化に伴い、家族による介護が困難になったことを背景に、介護を社会全体で支える仕組みとして2000年に介護保険制度が施行された。これは家族が担っていた介護という機能を社会的な組織や制度に委ねる「家族機能の外部化」の代表的な例である。
問4	答え 4 オルポート	精神的に健康で成熟した人間が備えるべき基準として、自己の拡大、他者との温かい人間関係、情緒的安定、客観的な自己理解、人生哲学の獲得などを提示したのは、アメリカの心理学者オルポートである。彼は、自己を客観的に見つめ、ユーモアのセンスを持つことや、人生の指針となる統一的人生哲学を持つことが人格の成熟に不可欠であると説いた。
問5	答え 4 他人指向型	アメリカの社会学者リースマンは、著書『孤独な群衆』において、社会の発展段階に伴って人々の社会的性格が変化すると説いた。高度産業社会（大衆社会）においては、他者の動向や期待に敏感に反応し、同調しようとする「他人指向型」が支配的になるとされる。若年層における対人配慮を重視したコミュニケーションのあり方は、この他人指向型の特徴と深く結びついている。なお、伝統社会における「伝統指向型」、近代初期における「内部指向型」と区別される。
問6	答え 2 ソクラテス	人間にとって最も大切なことは単に生きることではなく「良く生きること」であるとし、そのために自らの魂を美しく善いものにする「魂の配慮」を説いた。彼は、自己の内部で対話を行い、不正を行おうとするときにそれを引き留める内なる声（ダイモニオンの合図）に耳を傾けた。これは、英語の「良心（conscience）」の語源である「共に知る（conscientia）」が意味する、もう一人の自分自身との対話というあり方と深く結びついている。
問7	答え 3 デジタル・デバイド	情報通信技術（ICT）の利用環境や能力の違いによって生じる格差はデジタル・デバイド（情報格差）と呼ばれる。この格差は、雇用機会や所得の差、さらには社会的・経済的な不平等を拡大させる要因として、現代社会における重要な課題となっている。
問8	答え 2 メディア・リテラシー	情報化社会の進展に伴い、溢れる情報の中から必要なものを主体的に選択し、その信憑性を評価して活用する能力の重要性が高まっている。単に情報を受け取るだけでなく、その送り手の意図を批判的に分析し、主体的に活用する能力を指す。
問9	答え 3 心理社会的モラトリアム	現代社会の複雑化に伴い、職業的・社会的な自立のために高度な知識や技術を身に付ける必要が生じたことで、青年期（大人への準備期間）が長期化している。このような、社会的な責任や義務を一時的に猶予され、自己形成に専念する期間を、エリクソンは心理社会的モラトリアムと呼んだ。